

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八

《夫婦漫才 みやちゃん・もちちゃん》

「女将さん！女将さんが可愛くて、ご夫婦のやりとりが楽しくて、何度も通いたくなるお店。もちろんお料理も素晴らしくおいしく、いくらでも食べたくなる。大好きなからすみは、お餅と海苔巻きで、巨大真魚鱈はじっくり焼いて旨み増し増し：などなど締めのごはん類も三種類くらいあった。ここ数年京都で桜をみるのは混みすぎで避けてたけど久々、外出自粛要請発令前滑り込み」とインスタグラムに投稿されていました。

「ご存じの通り「食堂おがわ」の新店舗「食堂みやざき」は私どもの不動産仲介がお店をお世話した事やホテルをご利用頂いている事でお伺いしましたが、前述の投稿どおり、食堂おがわで修行。お料理も、夫婦漫才も素敵でした。これからも、月一程度でお願いしようと思います。」

京都国立近代美術館

5月23日～7月12日

《森口邦彦友禪／デザイン 交差する自由へのまなざし》
新型コロナウイルス感染症の予防
拡散防止のため、休館している場合があります。

2007年父である森口華弘氏と同じ「友禪」の分野で人間国宝に認定された森口邦彦氏。友禪訪問着のデザインが2014年にリニューアルされた三越のショッピングバッグに採用されたことでも知られています。父・森口華弘氏は花鳥風月の古典美をモチーフにした作風であるのに対し、森口邦彦氏は幾何学模様を配したグラフィカルな表現を極めました。

1941年京都市生まれ。京都市立美大を卒業後パリ国立高等装飾美術学校に留学しグラフィックデザインを学びます。帰国後、父・華弘氏の下で糸目糊や堰出し技法をはじめ華弘氏の特徴的技法「蒔糊」を学び、1967年日本伝統工芸展に初入選。以降、各展の受賞を重ね2001年には紫綬褒章を受章。新しい表現を追求しながら後進の指導と育成に尽力されています。

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《MMTとケインズ経済学／永濱利廣著》

MMTは日本経済の救世主になれるのか？
⑦
新型コロナウイルスの猛威に対し各国は国民の生命と経済を守る為に矢継ぎ早に対策を講じて居るが、我が国の対策は3月末時点で具体的なものは出ていない。現金給付や消費減税を望む声が国民や評論家、議員から見ても聞わらず3月28日の首相の記者会見では具体的な対策への言及は無かった。スピードが要求されているにも関わらず、これでは危機感が無いと言われても仕方がない。東京五輪も延期となった今、金融政策だけでは限界であり政府には国民の生活を守るために思い切った財政措置をすぐお願いしたい。

本書で永濱氏は日本が長期に停滞から脱する為には過度な緊縮財政から一旦離れて「賢い財政支出」をすべきでありMMTの考え方が従来の発想からの転換、政策の転換への刺激剤になるのではと述べている。同感である。

土口哲光和尚の説法

《言語にある「三密」を振り返ろう》

桜見物もままにならない自粛の春。国民に笑いを与えていた喜劇王・志村けんさんが遂にコロナウイルスの犠牲者となった。その訃報から一挙にコロナの脅威が増す。彼は私共に代わってその苦しみを背負われた「代受苦者」である。

①密閉②密集③密接の「三密」を避けなさい、と首相、東京都知事も自粛で三密を呼びかける。広がるコロナ感染から生まれた新たな造語であるが、「三密」の本来の言語は、仏教の中で密教が説く大事な修行目標である。仏の①身体②言葉③心の三密の働きである。森羅万象の全てを仏、即ち大日如来の具現とし、人間も仏と一体にあると真言密教は説く。この三密へ精進・努力して清らかな日々を。生きづらい世に、我が身を振りかえりたい。

季節の家庭料理 田村 真紀

《五月 切干大根のペペロンチーノ》

《作り方・四人分》
切干大根八十グラム・クレソン五十グラム・ペ1コン八十グラム(細切り)・にんにく一かけ(薄切り)・赤唐辛子一本(種を除く)・白ワイン大匙三・顆粒コンソメ小匙二・塩コショウ少々・オリブオイル大匙三

切干大根はよく洗い、五分ほど水につけて戻す。軽く絞ってざく切りにする。クレソンは洗って三、四センチ幅に切る。フライパンにオリブオイル、にんにく、赤唐辛子を入れ弱火にかけよい香りがしてきたらペ1コンを加えカリッとするまでじっくり炒める。切干大根、クレソンを加え中火で更に炒め、白ワイン・コンソメ・塩コショウで味を調える。

つれづれの記 山崎 辰巳

《人類の祭典が人類の危機に…》

新型コロナウイルスの感染が猛威をふるい人類を脅かすパンデミック(世界的流行)となり、地球的規模で広がりをみせている。人類の祭典としての開催が予定されていた2020東京オリンピックも残念ながら延期され、祭典が一転して人類の危機となった。

ここ数十年のあいだ世の中には、前代未聞・想定外のできごとが頻発している。こうした現象を天災といい、人災と断じる人もいる。ただ今回のコロナウイルス禍は、誰が想定しえたであろう？初動対処が充分だったのか？いつになれば終息するのか？今こそ世界のリーダーに試されるのは、健全な懐疑主義に立ち、どんな事態が発生しても慌てず付和雷同を戒め、速やかに最善策を見いだし、指導力を発揮できるかどうかだ。